

---

# 静なる決意

遊佐ひろみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

静なる決意

### 【コード】

N5580L

### 【作者名】

遊佐ひろみ

### 【あらすじ】

亡き母はわたくしの多くの写真を撮っていた。  
屋根裏に眠っていた写真の話。

家の奥に、写真がある。  
かなりの枚数だ。

とうじ高価だった牛皮のアルバムに、一まい一まい、透明なフィルムにはさんである。

撮ったのは亡き母らしい。

わたくしは別の用で屋根うらに立ち寄った、そこで見つけた。

ホコリでまっ白になっていた。

家人の記憶から排除されつつある代物の一つだった。

わたくしは暗がりになりながら、ふと不思議に思った。

なぜここまでわたくしの写真があるか、不思議だった。

写真はむかしはよく行われたと聞くが、それにしても数が数。かぞえて枚挙にいとまがなかった。

ちよつとトイレに立った、その背中まで撮られていた。

全豹を目に通すまでにわたくしは、夜までかかった。

階下から、電話ですよと呼ばれて、やっと顔をあげるしまつだった。

気づけばわたくしはわたくしを生んだ母の歳をとうに超えていた。  
いまでのひらに笑う母よりもわたくしは歳上なのである。

へんな気分だった。

母は、わたくしのような子にとって、ずっと母である。

追いかけては遠のいて果てしない、屋気楼のような存在だ。

それが写真を見れば、歳下のえくぼであった。

初めてお産をむかえる猫のように、ちよつと危なかく、無邪気っぽい、幼ない花嫁であった。

やさしく抱き上げられた母の強さは、写真の向こうでは、女の弱みでしかなかった。

もしもわたくしと写真の母が知らずに、雨のバス停に一緒したな

らば、母はわたくしに目上の態度をとっただろう。

じつとこちらの話に耳をかたむけて、ふかい相づちを見せて、いまある苦しみに口をひらかされただろう。

母はそのとき、りょうてで顔をおおった。

急な田舎に嫁ぎ、今まで味わった事のない冷たい生活に、夢いっぱい娘の胸は裂かれた。

縁もゆかりもない土地になじめず、一人の人間が悩んだ。

古い日本のしきたりは、素朴な暗さがあつた。

この人を頼みに思ってきた男の本性は、嘘であつた。

ただ二人の子供がすべてであるかのように、半生を生きた。

ゆいいつ血が通うわが子をおぶり、手をひき、暗いあぜ道を歩いた。

雨がぽつらぽつらと田んぼに輪をつくった。

不治の病も、狂気じみた田舎のならわしが、娘ひとりをはじめた結果と見なければならぬだろう。

わたくしは待合いの雨だれを聞きながら、話がとぎれた母を見た。歳下の母は下をむいて泣いていた。

ひざにはやすらかに眠った子供が首をおった。

このとき離縁を考えているといった。

肩に古いカメラがゆれた。

「写真をやるのですか」

「ええ。たくさん撮ります」

鼻をすすった。

「たくさん撮って、ながめますか」

「いいえ、ながめる暇はありません」

「？」

「きつとわたしは死ぬのです。これで長く生きてゆかれるはずはありません」

「まさか」

「なにかが欲しいのだと思います」

「残るものを？」

「ええ。この子に残るものを。わたしのすべてをこの子のすべてに」  
若い母は涙をこゆびにひろって、臆病に笑った。

バスが入って来た。

ずいぶん古いバスである。

母と子供はバスに乗り込んで、こちらに見える席についた。

窓を流れる雨つぶが光った。

雨があがった。

窓の向こうで母は、わたくしを見下ろして、なにか言った。

なんと言ったか、わからない。

バスは遠いかすみの向こうに消えた。

その後の母は、離縁を踏みとどまった。

英断であった。

ただ自らを犠牲にして、二人のために死んだ。

わたくしは白昼夢から覚めて、アルバムから身をおこした。

知らず知らずに寝てしまったらしい。

そのとき山のアルバムの一つに、幼いわたくしと肩をならべる母

の微笑があった。

プライドの高い幸福な微笑である。

それは何人にも屈しなかった人間の微笑そのものであった。

わたくしと一緒にになった人は、いつもこの微笑を見ては叶わぬ嫉

妬を感じるという。

歳下のえくぼの超えぬ内には。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5580/>

---

静なる決意

2010年10月21日20時18分発行